

大崎第一中学校の統廃合について問う

どうあるべきかも一度考えて判断したい



小園 孝一 議員

在り方検討委員会の機能は

校区民は大方反対しているその理由を、どのように受け止めているのか。在り方検討委員会は、正常に機能していたのか。

在り方検討委員会は6回の会合を開催

教育長

平成二十年一月二二日の第1回から、同年九月十一日の最終回まで、6回の会合を開催した。研修視察、意見交換、学校の設置場所、通学方法

学校活性化のための小中一貫校に関する意見など出たが、結論としては、中学校統廃合については、やむを得ないと委員の意見の一致をみた。



大崎第一中学校

二十五年四月統廃合するのか

小園議員

今年一月十八日の説明会で、初めて多くの住民

は知った。署名簿まで添えて陳情するというこの状況を、町長はどう考えるか。

議会だよりや、町報等で広報した

町長

十九年六月議会で一般質問等があり、議会だより、町の広報などで何回か知らせている。在り方検討委員会から、各学校等へ情報提供をして欲しいとの事で、資料等も渡してある。

地区活性化が進みつつあるが

小園議員

地区民はもう少し延ばしてくれとお願ひしている。今、野方小学校近くに定住化促進事業で土地の造成、インターチェン

ジの設置構想、企業の立地のため、土地購入等がある。なぜ二十五年四月に統廃合なのか。

地域活性化対策と統廃合は一線を画す

町長

活性化対策と中学校の統廃合は一線を画して考えるべきであり、地域の活性化の動向を見守る間にも生徒は卒業する。少しでも早く統合を実現して、よりよい教育環境で学校生活を送らせる事が、私の努めであると強く認識している。

自然災害について安心安全であるべきだが

小園議員

整備指針の中で学校の環境という事について洪水、高潮、津波、崖崩れ、雪崩、地滑り等の自然災害にも安心安全でなければならぬと書いてある。大崎中学校に統合すれば、

東日本大震災規模の津波に対し、安全は確保できるのか。

おおよそ安全であると捉えている

町長

先般の防災講演会において、津波が五メートル、一〇メートル、十五メートルの時に、どの地域まで影響を受けるのかのシミュレーションからして、大崎中学校については、おおよそ安全と捉えている。

時期尚早、納得するまで遅らせるべき

小園議員

野方地区は、第一中を中心に地域の方々が集まり、いろいろな催し物の企画や、ボランティアでの交流など、子どもたちと地域のつながりが非常に強い、地域と共に子どもたちを育てている地区である。時期尚早であるという地区民の陳情をくみ、じっくりと行政と地

区住民が話し合い、議論し納得するまで学校統合を遅らせるべきだが。



地域住民との共同作業

検討委員の意見を伺い判断する

町長

二千二百の署名は非常に重みがあり、また、学校の在り方検討委員会の答申も非常に重みがある。学校の在り方検討委員であった中沖・菱田地区の分館長やPTA会長等に報告し意見を伺い、自分としてもどうあるべきか、もう一度考えて判断したい。